

持続可能な

公共交通

ネットワーク

の再構築に向けて



方の買い物や通院に対応することなので、利用者の買い物や通院の時間に合った時間帯に走らせる必要がある。
・買い物や通院の時間について、アンケート結果では、主に午前中、1時間程度の滞在が多くなっている。これを踏まえた運行計画が望ましい。
・既存バス路線との重複についても考慮が必要である。
・運賃については、一律運賃のようにわかりやすいものにすべきである。

要である。
・乗継利用を考慮すれば、運賃は300円が妥当ではないか。
・たくさん利用される方に対する割引回数券が有効ではないか。

巡回ワゴンの
実証運行を開始します

北斗市地域公共交通活性化協議会（会長 齊藤征人 北海道教育大学 函館校准教授）では、今年10月から、市内の交通アクセスに不便な地域を巡回する「巡回ワゴン」の実証運行を開始する予定です。

巡回ワゴンは、令和3年3月に策定された「北斗市地域公共交通計画」に基づくもので、一定程度の市民が生活しているにもかかわらず鉄道やバスを利用しにくい地域について、買い物や通院といった日常生活に必要な移動を確保するために導入するものです。

10月から予定している実証運行は、三ツ石から上磯駅前を往復する「茂辺地・石別地区く上磯地区」ルート、

三好・水無・桜岱・押上・大工川地区と上磯駅前とを往復する「上磯地区」ルート、稲里・白川・細入から総合分庁舎前を経由し、新函館北斗駅に向かう「大野地区」ルートの3ルートを設定し、各ルート週2回、午前中に運行する計画です。
巡回ワゴンの実証運行については、これまで北斗市地域公共交通活性化協議会に設けられたワーキンググループにおいて、次のような議論・検討を重ねてきました。

■第4回ワーキンググループ

(令和3年3月18日)

新たな交通モードとしての巡回ワゴン運行に関する基本方針について協議し、委員からは次のような意見が出されました。

・巡回ワゴン運行の主な目的は、既存バス路線から離れている地域の

■第5回ワーキンググループ

(令和3年4月23日)

基本方針を踏まえて作成した巡回ワゴン運行計画(案)について協議し、委員からは次のような意見が出されました。

・巡回ワゴン運行の目的は、市街地から離れた交通不便地の住民の買い物・病院への通院といった生活の足を確保するため、上磯駅前や総合分庁舎前に連れてくること。
・すべての要望を巡回ワゴンだけで満たすことは不可能なので、運行の目的に沿った実証運行としなければならぬ。
・各ルートは連続したものではなく、それぞれ独立したものとして運行すべきである。
・国道で地域幹線である函館バスに乗り継げるようなルート設定が必要

■第6回北斗市地域公共交通活性化協議会 書面開催

(令和3年5月27日)

ワーキンググループで作成された巡回ワゴン運行計画(案)について承認を得ました。

なお、運行計画の詳細については、広報ほくと9月号でお知らせします。

問 市役所企画課企画係

「内線235」

